

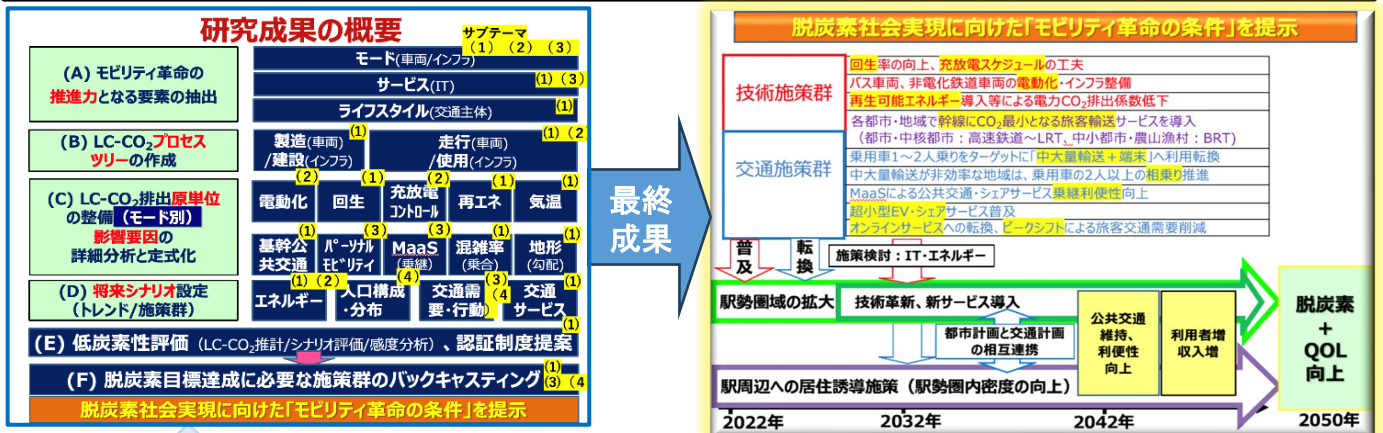
研究課題番号	1G-2001
研究課題名	モビリティ革命が脱炭素化を実現するための条件
研究代表者名（所属）	加藤 博和（名古屋大学）
研究期間	2020年度～2022年度
研究キーワード	モビリティ革命 CASE Maas LCA (Life Cycle Assessment) EBPM

<研究背景> ～100年に一度の「モビリティ革命」～

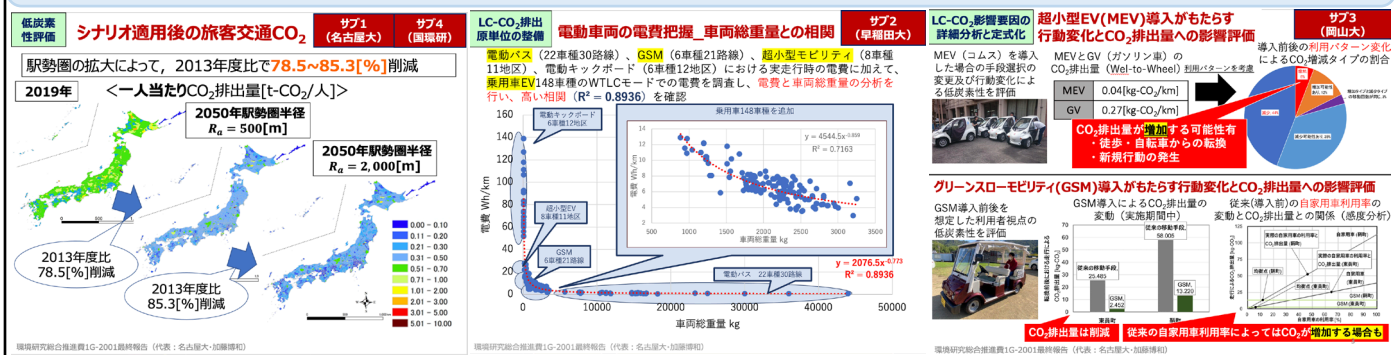
- CASE (Connected, Automated, Shared, Electrification) : モータリゼーションを根本的に変革
- シェアリングサービス・MaaS (Mobility as a Service) : 公共交通も変革

しかし、それが脱炭素化を促進するか否か？ 学術的・客観的評価が行われていない！

<研究目的>: 「モビリティ革命」を実現する新技術・サービスが、交通システムの低炭素性に与える影響の評価手法開発→「脱炭素を実現する条件」を提示
※同じものでも場合によっては是非が変わってくる



<各サブチームの研究成果(一部)> 最終研究成果報告書はこちら↓
https://www.urban.env.nagoya-u.ac.jp/strategy/research-jpn/final_presentation_1G-2001.pdf



環境政策等への貢献

- ・新たな交通システムや電動車両の導入に関する低炭素性の評価が可能に
- ・交通マネジメントに関する新技術の低炭素性の評価が可能に
- ・地域の社会・空間構造の中長期変化に伴う低炭素性の推移の評価が可能に
- 自治体の「実行計画(区域施策編)」「地域公共交通計画」「立適計画」策定時に活用
- 低炭素モード導入とその効果情報の公開、国の施策検討・審査、脱炭素認証制度確立へ